

(様式第4号)

## 介護保険運営協議会 会議概要

- 1 審議会名 上田市介護保険運営協議会
- 2 日 時 平成26年1月30日 午後1時30分から午後2時45分まで
- 3 会 場 上田市役所南庁舎5階第3,4会議室
- 4 出席者 佐藤会長、越田副会長、山野井委員、中村委員、藤井委員、腰原委員、細野委員、中澤委員、伊比委員、田中委員、大草委員、柴崎委員、南波委員
- 5 市側出席者 清水健康福祉部長、徳永高齢者介護課長、高野丸子地域自治センター健康福祉課長、若林真田地域自治センター健康福祉課長、北沢武石地域自治センター健康福祉課長、桜井高齢者介護課介護保険担当係長、長田高齢者介護課介護保険担当係長、小川高齢者介護課高齢者支援担当係長、金子丸子地域自治センター健康福祉課高齢者支援担当係長、羽毛田真田地域自治センター健康福祉課高齢者支援担当係長、内田武石地域自治センター健康福祉課高齢者支援担当係長
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成26年1月31日

### 協議事項等

1 開 会 (高齢者介護課長)

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 議題の概要

地域密着型サービス事業者の指定について(介護保険担当係長)

1事業所について概要と審査状況を説明

地域密着型サービス事業者の指定更新について(介護保険担当係長)

7事業所について概要と審査状況を説明

第6期上田市高齢者福祉総合計画の策定について(高齢者介護課長)

高齢者等実態調査の実施について説明

(2) 審議概要

議題1「地域密着型サービス事業者の指定について」

審査状況などをもとに審議したため、非公開

議題2「地域密着型サービス事業者の指定更新について」

審査状況などをもとに審議したため、非公開

議題3「第6期上田市高齢者福祉総合計画の策定について」

(委員) 今回の調査を第6期上田市高齢者福祉総合計画(以下「第6期計画」)策定の際に使う  
ということか。

(事務局) そのとおりである。

その他「介護保険制度改正について」

(委員) 生活支援について、老人クラブやボランティアに事業運営を担ってもらおうとされているが、上田市はどのように考えているのか教えてほしい。

(事務局) 現時点では、国から概要が出ていないため具体的には決まっていないが、今後ボランティアを育成し、活用を図っていくのは難しい部分があると思う。また、市長会や副市長・総務部長会議では、市町村が事業運営しやすいようにしてもらいたいとの要望が出ている。平成26年度においては介護予防事業やサロン事業に力を入れていきたいと考えている。

(委員) 現在、認知症地域支援推進員は何人いるのか。

(事務局) 現在、1人配置しており、職員と一緒に事業に取り組んでいる。

(委員) 第6期計画に認知症や軽度者に対する取り組みの他に、終末期についても盛り込んでほしい。特に在宅や施設で寿命を全うして亡くなる方について、お亡くなりになる場所や方法等のモデルケースを明記してほしい。今後、医療関係の会議や他の協議会の議題にも出してもらい、協議してもらいたい。

地域支援事業の取り組みについて、これまでは介護保険事業所に高齢者が来てレクリエーションや機能訓練を行う形態をとっているが、地域によっては職員が公民館や地域の集まりに出向いてお互いの情報交換をしたり、一緒に食事をする取り組みをしている。南信地域の小さな村では月に1回地域の集まりに保健師やケアマネージャーが出向いて体操や市の事業のお知らせをしている。こういう取り組みは移動コストが抑えられるので方法の1つとして検討してもらいたい。拠点について、公民館によっては、段差がある所や畳の部屋などで高齢者が利用するには向いていない所があるので、国、県、市の補助金があれば提案してもらいたい。ぜひ来年度は環境の整備にも力を入れてもらいたい。

(委員) 社会保障制度改革国民会議においても、看取り方について病院完結型から地域完結型に変えていくという方針が出ている。将来的には中学校区を1単位としたエリアの中で医師、看護師、介護職員が連携しながらやっていくことになると思う。

(事務局) 終末期について、国の方針として医療の病床数や特別養護老人ホームを増やす予定は無いという一方で、お亡くなりになる高齢者は増える。このような状況下でどのような形態がいいのか、先駆的に行われている東京都や千葉県の取り組みを参考に医療と介護の関係者からご意見をいただき第6期計画に盛り込みたいと考えている。

拠点作りについては、国の補助金もあるが、当市では「わがまち魅力アップ応援事業」や事業運営費を補助するような補助金等があるので個々の照会があった場合にはご案内していきたい。

(委員) 地域包括ケアシステムについて、資料にある地域包括ケアシステムの図の前に「介護・リハビリテーション」「医療・介護」「保健・予防」「福祉・生活支援」「住まいと住まい方」の関係が描かれた地域包括ケアシステムのイメージ図があり、前記4つの要素の受け皿として「本人と家族の選択と心構え」が描かれている。ここの部分から終末期の事も含め生き方について考えてもらおうという思いが込められており、地域包括ケアシステムの図よりイメージ図の方が前に出てきてもいいと思う。このシステムを構築する上で、どの団体が中心となりやるのか、どういう方法でやるのか等について協議していく必要があると思う。

資料に「多様なニーズに応じられるよう、通所サービスや生活支援サービスの多様化を図り」とあるが、通所サービスの多様化とは何か教えてほしい。また、通所サービスの給付費が他の居宅サービスに比べ多いが、事業所間で稼働率に差があり、需要と供給の関係についてどのように考えているのか教えてほしい。

(事務局) 地域包括ケアシステムについての構築していく上でどこがやるのかについて議論していかなければいけないと思っている。民間レベルでは生き方について考えを深める活動されている団体があり、そのような団体の方からは、市に全部担うのではなく、それぞれで役割分担をしていくべきとの意見も出ている。そのような団体からの意見も取り入れて進めていく

い。

通所サービスの多様化について、国の審議会では、事業所の登録定員に応じて小規模な事業所は地域密着型サービスに移行し、介護保険事業計画に整備数を位置付けることも議論されている。また、リハビリ特化型のデイサービスや小規模多機能型居宅介護のサテライト事業所として指定するなど今の通所サービスが大きく3つに分かれる可能性がある。

現在は、詳しい情報は無いので、具体的は申し上げられないが、来年度計画を策定する中で、具体的に詰めていきたいと思う。

(委員) 現在はそのような状況ではあるかと思うが、広島県尾道市御調町の山口昇先生(以下「山口先生」)の地域包括ケアシステムの研究会に参加した際、山口先生はそもそもこれは制度ありきではなく、その地域の資源をどう活用するか、高齢者等実態調査の結果も踏まえ取り組まなければならないと思うので、他の地域を模倣しても意味が無いと仰っていた。地域包括ケアを考える以前の問題として、考えるべき問題なのではと思う。

(委員) 終末期のことについて、高齢者学園でも教えており、「絆」という本をもとに勉強しているので、その本を参考にしてもらいたい。また、老人クラブについては、7～8年前からお茶飲みサロンや出前講座で職員が来てもらって体操を教えてもらっているのは是非参考にしてもらいたい。お茶飲みサロンは旧上田市で55団体あり、約80パーセントの割合で普及している。こういう事業には地域包括支援センターの職員が来てくれるので、利用したほうが良いと思う。